

第17回 ふるさと発見の旅 **—春—**

せいかかの春を楽しむ

南稲～北稲～僧坊 せいか山の辺の道

開催日：4月22日(水)

武内神社

**春のせいか山の辺の道、
お弁当を持って1日ゆっくりウォキング……**

〈コース 予定〉

- けいはんなプラザ ⇒ せいか里山 ⇒ 口谷湿地
- ⇒ 南稲集落 ⇒ せいか山の辺の道①
- ⇒ 北稲配水池（稲屋妻城址）⇒ 北稲集落 ⇒ 武内神社
- ⇒ 谷集落 ⇒ 安楽寺 ⇒ せいか山の辺の道②
- ⇒ 煤谷川北岸 ⇒ 自衛隊引込線跡
- ⇒ 近鉄狛田駅（解散）



- 集 合： 9：00 けいはんなプラザ日時計前広場
- 解 散： 15：00頃 近鉄狛田駅前
- 距 離： 約7 km
- 参加方法： 9時「けいはんなプラザ日時計前広場」集合
精華町光台1丁目
- 参加費： 300円
- 持ち物： 弁当、飲み物、タオル、雨具など
- 対象者： 全行程を歩くことができる方



主催：公益社団法人 精華町シルバー人材センター
 後援：精華町・精華町教育委員会

ふるさと案内人の会



せいか里山

精華町では、平成 19 年度に公募による住民活動の里山づくりワークショップ（共同作業）が 4 回実施され、町有地を活用して住民と行政との協働による里山づくりの取り組みが始まった。

平成 20 年度には、こうした取り組みを踏まえて持続的な里山づくり方策を具体的に検討するための準備会が 6 回開催され、準備会での議論を踏まえて、東畑地区を里山づくりの先導的な活動拠点とし、さらに精華町全体の里山づくりを展望して、「せいか里山の会」が設立された。

★せいか里山の会の会員は、何をするの？

- ・里山をきれいにするための下草刈りなど毎月実施
- ・里山の恵みを体感できる楽しいイベントを実施
- ・みんなでわいわい楽しめればそれでいい！テーマごとに分かれてグループ活動を行っている。
- ・農業体験、・森林体験、・生活体験、自然観察調査、里山文化活動、・活動の普及、啓発

★保全活動は定例として、毎月第 3 土曜日の 9 時から正午まで。

★イベントとして、秋の収穫祭を毎年 10 月の日曜日に実施している。（参加費が必要）



口谷湿地と野に咲く花

煤谷川の一支流の源流である大字南稲八妻小字口谷地区一帯が湿地帯を形成しています。東畑と南稲八妻の境に位置し、【せいか里山】と自衛隊基地に挟まれた場所で、通る人はほとんどないところだが、春や秋には山野草が咲き乱れ、夏から秋にかけては蝶々やトンボが舞い、カメラ片手のマニアを見かけるところだ。





ホトケノザ



シソ科の雑草ですが虫眼鏡で見ると、ランを思わせるほど可憐で。美しい花を咲かせている

タンポポ



(西洋タンポポ)



(日本タンポポ)

里山や郊外では日本タンポポと、西洋タンポポが勢力圏を争い日本タンポポが郊外へ郊外へと追いやられているようだ。俗に「タンポポ戦争」？と呼ばれているようだ。

ナズナ (ペンペン草)



春の七草のひとつ。ペンペン草の名で親しまれている雑草ナズナは、春ばかりでなく夏でも、秋でも次から次へと芽が出てくる。

スミレ



(スミレ)



(スミレ)

山野に咲くイメージが強いスミレも気をつけてみるとコンクリートの割れ目や、石垣の隙間など街の中でもみることがある。

カラスノエンドウ



カラスノエンドウは見てお解かりと思う。スズメノエンドウもある、ご存知ですか？ 大きさが違う。ややこしいことにその中間のエンドウもある。

南稲八妻集落の今昔

南稲八妻の地は、北稲八間、植田の地とともに稲蜂間、稲八間、稲八妻と呼ばれ、古代より山陰・丹波地方と大和を結ぶ要路（古山陰道）として、人の行き来が盛んでした。奈良時代孝謙天皇に、地元豪族【稲蜂間氏】出身の仲村女が内侍として活躍したそうだ。

平安・鎌倉時代には荘園等がもうけられており、室町時代には【山城國一揆】終焉の地となった【稲屋妻城】がこの付近にあった説もある。永禄 11 年（1568）には、松永久秀の領地となり家臣として稲八妻氏がこの城に入っていたと記録されている。

江戸時代には、精華町内では珍しく一村一領主で、淀藩稲葉家の支配を受けていた。享保 14 年（1729）の資料によれば、石高は 859. 128 石 109 戸だった。

明治に入り、明治 17 年（1884）の相楽郡村誌によれば、南稲八妻の田畑は 68 町余り、人口 528 人、戸数 118 戸、牡牛 65 頭、人力車 2 両であり、物産として、製茶 1600 斤、豌豆えんどう 30 石、大豆 30 石、大根 2700 貫目を生産し、大阪や伏見に出荷していた。

その後、南稲八妻村⇒明治 22 年（1889）稲田村⇒昭和 6 年（1931）川西村⇒昭和 26 年（1951）精華村⇒昭和 30 年（1955）精華町となり現在に至っている。



せいか山の辺の道

「山の辺の道」といえば、奈良盆地の東端を南北に走る古代道路のことを言うが、ここ精華町の甘南備丘陵東麓の南稲八妻～北稲八間～谷～僧坊といった旧集落を南北に結ぶ道を私たちは「せいか山の辺の道」と呼んでいる。

この道は木津川に比べやや高い位置にあるため、見通しの良い場所では木津川べりや川向こうの山城町・井手町などの風景を見渡すことができる。また、沿道の集落に残っている古い家並みや、季節折々の野辺の草花や小鳥を目にすることができ、懐かしい風景に出会える散策道だ。



北稲八間集落の概要

北稲八間集落は、山城南部の城南平野の西部にあり、『甘南備丘陵』を西に背負い、東に北流する木津川や宇治田原山地を望む東向きに立地している。【続日本紀・正倉院文書】などの八世紀、奈良時代の文献に稲蜂間氏は【稲蜂間連光延、稲蜂間宿禰仲村女】の名前が出ており、この辺りを領しそのため、村名も『稲蜂間（いなはちま）』と呼ばれ、その後『いなやづま』となり、さらに『いないづま』と言われた。更に南北に分かれ現在の北稲八間・南稲八間となったそうだ。

近世に入り、村高 700 石の村請村落とされ、瑞龍寺・朝倉氏・笈氏が支配する相給村として推移した後、いまの精華町大字北稲八間の集落となった。



山城国一揆

1485(文明17)年12月11日。この日は、のちに歴史の上で「戦国時代の国民会議」という高い評価を受ける山城国一揆が始まった記念日だ。山城国南三郡(久世、相楽、綴喜)の国人、農民達が連合して一揆を起こした。

応仁の乱以来衝突を繰り返す守護畠山政長と畠山義就(よしなり)の軍勢を退去させ、守護不在のまま8年間自治的支配を続けた。しかし次第に内訌(ないこう:組織の内部が乱れる)が激しくなりその結果、国人の一部は最後まで抵抗したが、守護から相楽・綴喜2郡の支配を命じられた古市澄胤(ちやういん)に敗れ、1493(明応9)年、国人合議の体制は解体しました。※国人:地元の武士

逆修の碑(げきしゅうのひ)(五輪塔)

城山の南側のふもとの北稲八間の共同墓地の中、「五輪塔」が十数基並び、中央には「石仏地蔵」が立っている。地蔵と五輪塔を総称して「逆修の碑」と呼ばれている。地蔵には「天文六年逆修人数十四人」と刻まれている。「生前に死を覚悟した人や、若くして亡くなった子への弔い」を意味する「逆修」の文字から、国一揆との関連が指摘され、国一揆の逆修の碑といわれている。足利時代の1537年(天文六年丁酉ひのととり)十二月二十日に建てられたもので、建碑者は不明。《中央に舟形地蔵立像石仏、左右の五輪塔は、同じ高さのものが、七基ずつあったが、現在二基は、墓地の入口に移動されている。

※五輪塔は、下から地輪・水輪・火輪・風輪・空輪と数える。古代インドにおいて宇宙の構成要素元素と考えられた五大を象徴する。



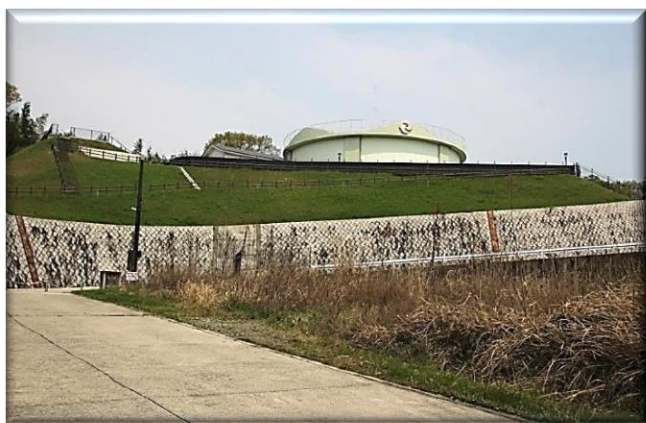
稲屋妻城址

山城國一揆の終焉の地と云われる稲屋妻城は、その存在場所が明らかでなく、①【北稲八間小字城山】現在の北稲配水池のある場所、②【南稲八妻小字焼山】、③【南稲八妻小字政ヶ谷】などの説がある。

- ① の北稲城山の地は、南麓に「逆修の碑」と呼ばれる天文6年（1537）と記載がある五輪塔が十基あり、山城國一揆との関連が指摘され、國一揆の逆襲の碑といわれている。
- ② の南稲焼山の地は、地元で昔よりいい伝えられており、【願成寺】は山城國一揆で亡くなった方々を弔うために建てられたともいわれている。
- ③ の南稲政ヶ谷の地は、地元郷土史家の奥田裕之氏が昭和55年に現地踏査し、平らにならされた郭や尾根を切り裂いた空堀を確認され、小字政ヶ谷・北谷・尻谷・蓮池・皿池一帯を城跡であると指摘された。



京都新聞 昭和56年8月19日 南稲の澤田さん提供写真



城山からの眺望



朝倉氏の墓

武内神社

養老2(718)年に稲峰間光延(連)がこの地に城を築き、この地区近郊を支配したという伝説があり、又夢のお告げによって領土が安らかに始まり、五穀が豊かに実るようにと、日頃尊崇する男山八幡宮の様式に倣い、武内宿祢を祀ったことに起源すると伝えられている。

文保元年(1317)、男山八幡宮より観請して創立されたといわれている。

▼本殿(京都府登録有形文化財):1棟

鎌倉風の古式をとどめた作例で、江戸時代中期に建立された。春は桜の名所となっている。

▼棟札と造宮記録

武内神社造営・上葺の棟札は、現在21点発見されている。ほかに、嘉永7年の黒船来航に際する異国降伏の祈禱札が1点ある。室町時代には北稲八間荘の、さらに江戸時代には北稲八間村の鎮守であった武内神社には、多くの棟札が伝えられている。若干のばらつきがあるものの、だいたい各棟札の年代間隔もそろっており、途中の欠落も少ない。これを変遷的に見ていくと、北稲八間における村落の変遷を知るうえで貴重な資料であることが明らかになっている。棟札16枚は「京都府登録有形文化財」に指定されている。

本殿西側の鎮守の森は「府決定文化財環境保全地区」に指定されている。



安楽寺

宗旨は浄土宗、本山は知恩院

創建されたのは、天文 5 年(1536)本誓単信の開基で、元禄年中(1688—1704)僧相誉の中興という。

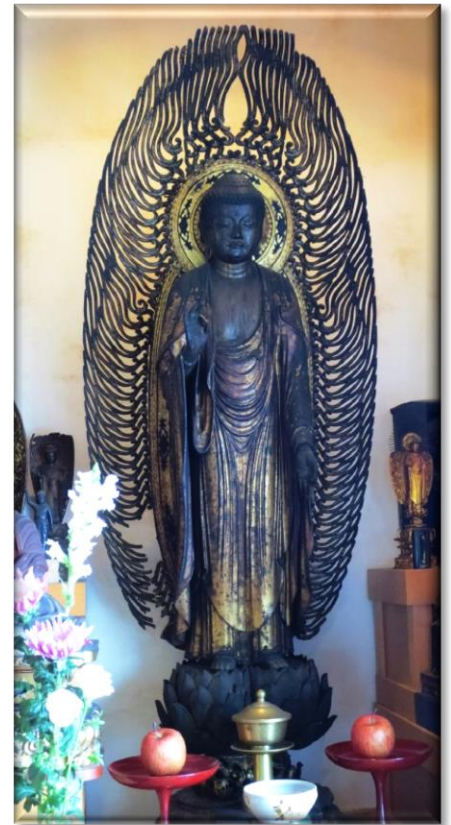
本尊は<阿弥陀如来坐像>で、高さ 88.7cm、木造(ヒノキ)寄木造、漆箔、彫眼で来迎印を結んで坐っておられる。

この阿弥陀如来さんは明治初年に、僧坊の別の寺から移されたと伝えられ、平安時代後期(12世紀)の典型的な定朝様の一例であるといわれている。

また、本堂内にもう 1 体<阿弥陀如来立像>が安置されている。(木造、寄木造、高さ 95.9cm)

この阿弥陀如来立像の光背は二重円相の周辺部に火炎があらわされ、台座は踏み割り蓮華の形式でこの光背・台座とも当初の部分がかなり残っているのは貴重であり、仏師快慶のつくりだした安阿弥様(あんなみよう)ようといわれる作風をうけ継ぐ作例であるといわれている。鎌倉時代(13世紀)の作。

その他：当寺には貞享 3 年(1686)銘の「梵鐘」が蔵される。



旧陸軍軍用鉄道・川西側線の橋梁跡と分岐点



鉄橋は廃線後もそのまま残されていたが、治水対策の観点から、平成 19 年(2007 年)には撤去された。



昭和 18 年(1943)の晩秋、在学していた旧制商業学校 3 年生に、〇月〇日から 3 日間、〇〇部隊に出動、作業に従事するといった通告を受けた。集合は早朝の京都駅前、未だ陽の昇り切らない薄暗い時刻であった。集結した約 150 人は当時の奈良電、現在の近鉄京都線の急行に乗車、臨時停車した「狛田」で下車、隊列を整えて生駒山脈北部に連なる丘陵へ通じる道路を行進した。

少し行くと踏切があり、その先道路と線路が並行する。一面に立ち込める朝露の背後から蒸気機関車の排気音が追って来た。やがて C11 形タンク機関車に牽かれた貨物列車が隊列の横を通り過ぎて行った。約 2km ほど進むと営門があり「祝園部隊」の標札が掲げられていた。

当時学生間で秘密事項として流布していた「帝国海軍に戦艦大和あり、陸軍の弾薬庫祝園部隊が府下南部にあり」と称されていた砲弾工場、貯蔵庫である。

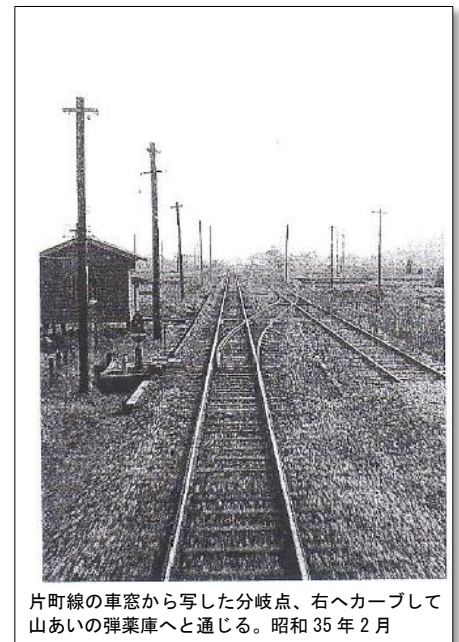
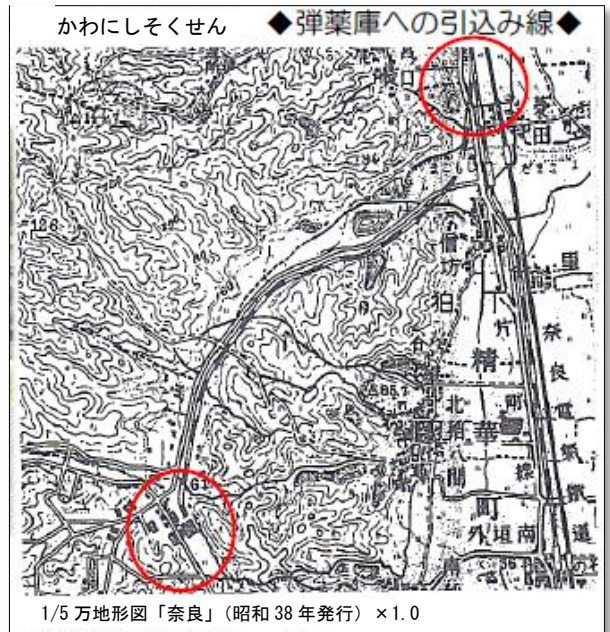
ここは、昭和 14 年京阪沿線の枚方にあった禁野(キヤ)弾薬庫が大爆発を起こし、施設が壊滅、周辺地域は被害を受け、京阪も数日間不通となる大事故があった。軍部は急遽代替施設をこの地に設け、片町線田辺ー祝園間の途中で分岐する引込線を敷設していた。弾筒に火薬を充填する作業場、山間の窪地に点在する貯蔵庫、それらを結ぶ道路とトロッコの線路からなっている。

初めのうちはいつ爆発するか判らないと、ヒヤヒヤしながらの作業であったが、2 日目からは度胸もつき、充填や運搬の作業をおえた。

帰途も営門を出て駅へ向かって行進していると、背後から汽笛を鳴らし、貨物列車が下り勾配を滑るように隊列を追い抜いて片町線との分岐点へ向かって行った。約 60 年前の出来事だが、未だに私の頭脳の一隅にその光景が刻み込まれている…。

戦後カメラを入手して、この引込線の分岐点を記録に残しておきたいと思って写したのがこの 1 枚の写真。昭和 35 年の撮影で、片町線ディーゼルカーの車窓から写している。右側に分岐するのが弾薬庫への引込線。

(随筆：田辺・川西側線、片町線より)



片町線の車窓から写した分岐点、右へカーブして山あいの弾薬庫へと通じる。昭和 35 年 2 月

せいか小さな旅は毎月 22 日！ 9 時集合で 12 時解散です!!

第 21 回せいか小さな旅『大坂道と里山を歩く 山田川～乾谷～中ヶ谷～柘榴～光台 5 丁目』

日 時：5 月 22 日(金) 9 時に近鉄京都線 山田川駅前に集合

「こんな所にこんな道が…!?’ 今回の里山の道も面白い発見があります。新緑の里山を爽やかな風に吹かれながら歩きませんか。可愛い山野草に出会えるかも…(#^.^#)

※ 詳細は、5 月号の【華創】に掲載します、ぜひご参加ください。

※【華創】は精華町ホームページでもご覧いただけます、毎月第 1 金曜日発行・掲載です。

- ☆ 交通ルールの遵守
- ☆ ゴミは捨てずに持ち帰る
- ☆ 通り道の草花は絶対に摘み取らない
- ☆ トイレ等へ行ったり、途中で帰る場合は必ず引率者に連絡する

ふるさと発見の旅 — 春・秋 — . . . いままで案内したところは . . .

- 第 1 回 『お千代半兵衛の眠る丘からけいはんな丘陵を訪ねて』
- 第 2 回 『木津川沿いを歩く』
- 第 3 回 『古の佇まいの面影を残す精華古道を歩く』
- 第 4 回 『学研都市研究施設を巡り歩く』
- 第 5 回 『山田川流域の里を歴史と文化財の謎を探りながら歩く』
- 第 6 回 『精華町最高峰「嶽山」にいだかれた里 東畑を訪ねて』
- 第 7 回 『祝園八景を探る旅』
- 第 8 回 『山城の国一揆終焉の地を訪ねて』
- 第 9 回 『南山城三十所巡り in 精華』
- 第 10 回 『河井寛次郎がこよなく愛した 菅井～植田の里巡り』
- 第 11 回 『知っているようで知らない 精華学研都市を巡る旅』
- 第 12 回 『山城國菱田村絵図でたどる 晩秋の藪の渡しと三つの春日神社』
- 第 13 回 『桜咲く大坂道を歩こう！ ～山田・乾谷～柘榴の里～』
- 第 14 回 『殿の松はどこじゃ！南稻八間～東畑里山～旧街道を辿る旅』
- 第 15 回 春爛漫の里山 巡礼記の道、古墳、いちご園『菱田～僧坊～谷集落を辿る旅』
- 第 16 回 『吐師の里から紅葉のけいはんな記念公園を訪ねて』

詳細資料は「精華町ホームページ」に掲載していますのでご覧ください。

・精華町ホームページ ⇒ <http://www.town.seika.kyoto.jp>

トップ ⇒ 観光・史跡 ⇒ 精華町ふるさと案内人の会 ⇒ ふるさと案内人の会「ふるさと発見の旅」

公益社団法人
精華町シルバー人材センター
ふるさと案内人の会

〒619-0244 京都府相楽郡精華町北稻八間井手ノ元27-1
TEL 0774-98-0510
FAX 0774-98-0670
e-mail seika@sjc.ne.jp